

⑫等々力溪谷の秋を満喫しよう！散策ガイド

2018.11.7

日程 11月14日(水) 集合:9:00東急大井町線等々力駅の 改札を出て左の線路を渡った線路脇
・中川 8 : 4 9 発⇒あざみ野8:52着 9:01発⇒溝の口9:09着(大井町線)9:12発⇒等々力9:19着

コース: 等々力駅⇒逆川の碑⇒等々力溪谷(ゴルフ橋)⇒野毛大塚古墳(トイレ)⇒3号横穴(トイレ)
⇒稚児大師堂⇒日本庭園*(トイレ休憩)⇒不動の滝⇒等々力不動尊(トイレ休憩)⇒御岳山古墳⇒狐
塚古墳(トイレ)⇒傳乗寺⇒八幡塚古墳⇒九品仏駅解散 *オプション 浄真寺



集合場所の路地から大通りを左に曲がり進み信号を渡ると郵便ポストがあります。その横に「逆川」と書いた碑があります。これは等々力溪谷を流れる谷沢川が逆流したことを示すものです。



横断歩道を渡り大木のある成城石井の横を進みます。左手の小さな「広場」に等々力溪谷の案内図、広場と溪谷内の温度差の表示などがありますので目を通してください。出口の左手に「ゴルフ橋」の碑があります。橋の上から右手を見ますと逆行の原因である谷沢川が直角に曲がっているのが分かります。

「等々力溪谷入口」の階段に一步下りるとそこはもう都会の喧騒から離れた自然の世界。階段を下り後ろを振り向くと真っ赤なゴルフ橋が見えます。名前の由来は、昭和の初めに旧下野毛にゴルフ場があったことに由来しています。軍事国家であり庶民の服装は着物姿であった時代にゴルフ場とは……。

谷沢川の流れに沿って歩きますが、道幅は人がすれ違うのがやっとの狭さに加え、すのこが敷つめられ大変不安定です。途中から石の道に替りますが、狭さは変わりません。透明度の高い川の流れや鬱蒼たる樹林に気を取られ、足元が不十分にならないよう注意してください。注意を払いながらも、所々にある「溪谷の案内図」、「説明版」を読んで再度認識してください。

途中で小さな橋を渡り川の右を歩きます。すると右側の土の所に湧水が湧いているのが見えます。この湧水は谷沢川に流れ込んでいるのです。また、谷沢川の底が幾つにも変化しています。

環状8号線のガードを潜り暫くしましと右手に野毛大塚古墳の表示された階段があります。階段は急なうえに約100段ありますのでC班はパスします。階段を上って突き当りを右に、バス通りを左に、1つ目の信号を左に曲がると「玉川野毛公園」の入り口があります。突き当って左に進みますと「野毛大塚古墳」にぶつかります。広場の方に行きますと「都史跡 野毛大塚古墳」の大きな碑が立っており、その横に説明版があります。歴史を読んでから少し戻り、



桜の大木の横の階段を昇っててっぺんにから見ると帆立貝形の古墳であることが良くわかります。また、大きな石の上に描かれた『埋蔵施設と副葬品の図』からは、4つの主体部の何処に何が埋蔵されていたかが判ります。

再び等々力溪谷に戻ります。階段少しに左にあります木製の橋を渡って左に行くと広場です。広場には「等々力溪谷公園」を説明したプレートと1971年ごろの溪谷図がありますので、一読してください。広場を横切り、「公園で見られる野鳥」の看板の前を通過して階段を昇ると「等々力溪谷3号横穴」があります。入り口がガラス張りになっていますので是非中を覗いて、横穴簿の絵図と大きさを比較してみてください。奥に進みますと1号横穴跡、2号横穴跡があります。

また橋まで戻り、左に曲がって川沿いに歩きますと「稚児大師堂」に出ます。稚児大師は弘法大師が幼い時の呼び名で、堂の中には稚児大師像が設置されています。また、立札には弘法大師が創設した大学のことが書かれています。

遊歩道に出ましたら右に曲がりますと、間もなく右手に急な階段が見えます。ここを登って行くと「日本庭園」入口があります。芝生を



横切り階段を降りると書院です。この書院は、1961年に造られそのまま保存されています。室内には、



等々力溪谷の今昔がパネルで展示され興味深いです。セルフサービスのお茶も用意されていますので、休憩しては如何ですか？

ここからは下りになります。階段の両側には甘夏ミカンやミカンなどの柑橘系がたわわになっています。見惚れて階段を踏み外さないように注意してください。階段を下ると今度は竹林に変わります。降り切って冠木門を出て左に見える「利剣の橋」を渡りますと正面に「不動の滝」左側に「稻荷堂」があります。

急な階段を昇ると「等々力不動尊」に出ます。途中に役の行者の「神變窟」と刻まれた石碑の横に小さなお堂と洞窟があります。C班は、階段を登らずに横にあります「茶屋」の前から繋がる緩やかな坂道を登ります。

等々力不動尊には、お不動様が祀られた「明王院本殿」に「明王院大師堂」そして休憩所があります。日本庭園で休憩しなかった方はここでコーヒーなど如何ですか？

今年は台風の影響による塩害で紅葉は、余り期待できません。運が良ければ、境内の中央にある大銀杏、展望台から眺めるモミジの素晴らしい紅葉が見られるかもしれません。その他に境内には、素敵な松やタイサンボク、桜、松の大木が見られます。

*要所には、必ず説明プレートがあります。忘れた方は、是非確認してください。

英気を養いきっと元気が出たことでしょう。山門を出ると目黒通です。左手にある横断歩道を渡り右に坂を下りますと左手に「東京都指定史跡 御嶽山古墳」です。

古墳の入り口に柵がありますが鍵はかかかっていません。門を開けて中に入ると足元は枯葉が敷き詰められ、周りは木々で覆われ日も差しません。道の両側には並んだ石仏は、頂上まであります。辿り着いた先には、祠があり赤い石に閻魔さまが彫られています。

目黒通りを少し戻り、1つ目の角を右に曲がります。そのまま住宅街を進み、右手に薄緑の街灯があるT字路を右に曲がります。坂を下り上り左手に1丁目29の電柱と横断歩道の道路表示がある十字路を右に曲がります。そのまま坂を下って行きますと左手にベージュ色の壁が見えます。その上が「狐塚古墳」です。



少し下った所にあります「おもいはせの路」のプレートを読んでから、階段を上がります。頂上付近はほぼ平坦で、斜面にはアカマツの大木があり、樹林地となっています。墳丘全体は道路より5メートルから8メートルほど高くなっているため、晴れた日には富士山が眺められます。

坂を更に下って行き左手の電柱の上方にある「ワクワク体操」の看板を左に曲がります。住宅街をひたすら歩きますと右手にお墓が見えてきます。墓と宇佐神社の横を通り、大きな通りに出たら右に曲がり、右手にあるのが「傳乗寺」です。



東側の山門をくぐると正面に五重の塔が聳え立っています。世界平和を願って立てたそうです。東京で五重塔を見たのが上野・寛永寺、浅草・浅草寺、池上・本門寺位ですので驚きました。本堂と南側には仁王門があります。



先ほど通過した「宇佐神社」に戻ります。下見に行った時は、七五三が近いので神社の人達はその準備に追われていました。

正面にある拝殿は、小ぶりです。その前にある左の狛犬は、珍しく子が親のしっぽを噛んでいる可愛らしい姿です。社務所の右手に



あります狭い道を奥に進むと左に「八幡塚古墳(はちまんづか)」です。台風の影響で木々が倒れているので通行止めになっていますが、宇佐神社の許可を取りましたので入ります。突き当りの階段を上がると末社(おまっしゃ)があります。古墳を出たら左に行き裏口からバス通りに出て、左折します。坂を上がると右側に「寮の坂」の碑が立っています。こらは、先程見ました傳乗寺が昔坂の東側台地にあり、本堂と並んで僧侶の学舎があったことから土地の人が呼んでいたそうです。

更に坂を進み、環状8号線の信号を渡り右折、2本目の「タイヤガーデン」の看板を左折します。暫く変わった住宅などを見て楽しんでください。何本目かの十字路で「奥沢八丁目 35」が表示された電柱を右折します。面白いものを発見しました。庭の木が電線に架からないように剪定している家、関係なく伸び放題させている家、細い糸のような葉の木などです。その木を過ぎるとKOKUYOの看板が見えますので、左折です。商店街の突き当りが「九品仏駅」です。

ご苦労さまでした。ここで解散します。

ここの商店街で昼食をとる方に紹介します。

天井などの「松屋」、日本そば「有楽庵」、中華そば「楽宴」、その2階の「洋食カフェ」そして「イタリアンレストラン」があります。1駅先の自由が丘に行くのもよし、スーパーでおにぎりなどを買って浄真寺で食べるのも良いものです。

東急大井町線の踏切を越え、5分ぐらいで「浄真寺」に着きます。

松並木の参道は、長いです。お寺に入る前に参拝者の心を清らかにして貰うためではないでしょうか。皆さん、是非、そのようにお考えください。そして山門を潜るとき、帽子を被っている人は脱帽し、一礼してください。

総門を潜るとモミジが目飛び込んできます。モミジは仁王門から奥まで広がっています。きっと素晴らしい紅葉なのでは胸をワクワクさせました。途中右手に「閻魔道」があります。仁王門の左手にある「鐘楼」の彫刻は素晴らしいのでご覧ください。仁王門の右手が「本堂」、その脇に銀杏の大木、黄葉に染まっているでしょうか？本堂の正面のお堂が「上品堂」、右が「中品堂」左が「下品堂」でそれぞれ3体の阿弥陀仏像が祀ってあります。その他に「三十三観音堂」「開山堂」「地藏堂」「阿育王塔」などがあります。



気の向くままゆったりした気持ちで秋の散策を楽しんでください。